

第1章 ■ みなかみの自然の特徴

諏訪峡大橋からのぞむ

昭和4(1929)年、有名な登山家の大島亮吉が谷川岳を「近くて良い山なり」と記しました。標高2,000mに満たないのにもかかわらず、山麓の国道からすぐの距離に岩場と氷河地形、そしてブナの森を見ることができ、くぼみには夏まで残雪があり、しかも亜高山帯も高山帯も少しの時間で登れるなど、谷川岳は山の魅力や醍醐味が一気に凝縮された山です。現代の忙しい都会の人々にとってはなおさら「近くて良い山」であるといえるでしょう。

谷川連峰はみなかみ町を代表する観光地でもあり、みなかみの自然環境を象徴するものです。みなかみ町の自然の特徴について谷川連峰をみていきましょう。

みなかみ町は、日本の脊梁山脈といわれる越後山脈の太平洋側の標高が一番高いところに位置する利根川源流の町です。

太平洋側でありながら特に冬は日本海側の気候の影響を受け大雪が降ります。この気候により谷川岳から北へ向かう稜線の非対称地形が作り出されており、みなかみ側は岩場が見られ、切り立って落ちているのに対し、新潟側はかなりなだらかになっています。こういった地形やきびしい気象の影響をもとに唯一無二の豊かな自然環境が形成され、これまでそれを大切に守り、そして活用されてきました。

一ノ倉沢の岩場は、日本アルプスの穂高岳、剣岳とならんで、三大岩場の一つとされており、岩場の高度差は、800mから900m程度といわれています。また、東面だけの岩場の幅はマチガ沢から幽ノ沢のそばの堅炭尾根まで約2,000mと大変幅広く、この幅の大きさと高度差は冬の雪と西風のすごさを物

語っています。また、谷川岳や利根川源流域の小沢岳には、氷期の氷河の痕があることが明らかになってきており、谷川岳の東面の岩場などは氷河の影響を受けていると推測されます。岩壁の基部の高度は穂高岳の約2,300mに対し、谷川岳は約1,000mと桁はずれの低さです。

植生にも着目してみます。高度に応じた生物の分布のことを垂直分布といい、山の場合は、木の高さや種の違いなど、見た目にもはっきり判るので、上から、高山帯(ハイマツ帯)、亜高山帯(シラビソ帯)、山地帯(ブナ帯)と区分しています。下の表に谷川岳と中部日本山岳地域平均値、乗鞍岳における高山帯と亜高山帯の下限及び高山帯と亜高山帯の幅(高度差)をまとめました。

亜高山帯の下限は、中部山岳地域とそんなに違いはないといえます。しかし、高山帯の下限は中部山岳地域、乗鞍岳と比べ、谷川岳は700～800m程度低くなっています。山頂の高度がほぼ1,000mの差があるにもかかわらず、登りはじめからこれほど早く亜高山帯がなくなるということは特徴的であり、植物が生息するには大変きびしい自然環境であるといえます。

ブナ林は動物たちにとって大切な生息場所です。昆虫などは魅力的な食物あふれる「お菓子の家」に

	谷川連峰	中部日本山岳地域平均値	乗鞍岳
山頂の高度	2,026	3,000	3,026
高山帯の幅(高度差)	276	500	396
高山帯の下限	1,750	2,500	2,630
亜高山帯の幅(高度差)	350	1,000	1,040
亜高山帯の下限	1,400	1,500	1,590

表 谷川岳と中部日本山岳地域平均値、乗鞍岳における高山帯と亜高山帯の下限及び高山帯と亜高山帯の幅(高度差)比較(単位:m)

第1章 ■ みなかみの自然の特徴



谷川岳山頂付近からのぞむ

住んでいるともいえ、動物は食べ物と住む場所を植物に求めており、ブナが茂る森などの山地帯の方が亜高山帯などより生活しやすいことが生態学の生体量、生産量の数値的にも示されています。

この地域には、大型の哺乳類であるクマやカモシカが生息し、さらにシカやイノシシまで見られるようになりました。また、鳥類では、イヌワシやクマタカなどの猛禽類^{もうきんるい}が生息していて、ほかの肉食性の鳥も多く見られます。特にイヌワシとクマタカは、生物界の食う―食われるの関係の一番上にいる動物なので頂上種と呼ばれています。この猛禽2種がいるということは、それぞれの餌となる動物たちが、生体量、生産量、種数ともに豊富であることを意味します。もちろん、生産者である植物も種数だけでなく生産量も高くなければなりません。ある地域において、大型で広い行動範囲を持ち、様々な生息環境を必要とする種類をアンブレラ種といいます。アンブレラ種が生息できる環境を守るということは、その傘の下にある動物植物を保全しているということであり生物多様性が保たれると考えられています。みなかみ町にはイヌワシ、クマタカのほかにツキノワグマなどのアンブレラ種が生息しており、この観点からもみなかみ町は自然が豊かであるといえます。

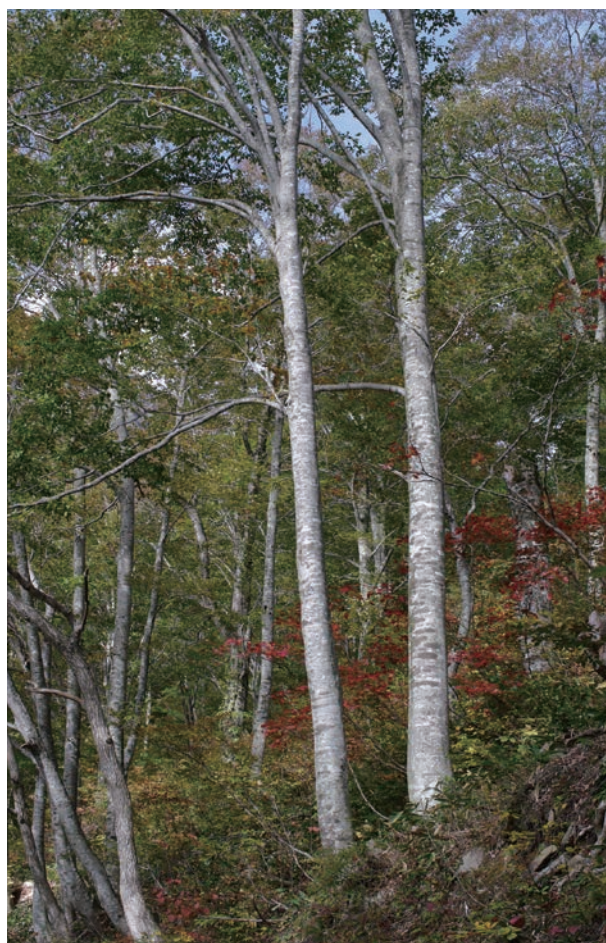
みなかみ町の自然はまだまだ語り尽くせませんが、特徴を総評するに、標高は低いながらも高山レベルの山岳景観を有し、生産力の高いブナの森を中心とする生物多様性が保全された自然豊かな地域であるといえます。

この「みなかみの自然とくらし」ではみなかみ町の自然を部門ごとにわかりやすく説明し、自然と人と

の共生をテーマに編集してあります。

本書により、みなかみ町の自然のすばらしさを感じ、そして誇りに思っただけでしたら幸いです。

(斎藤晋)



みなかみ町のブナ林